

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

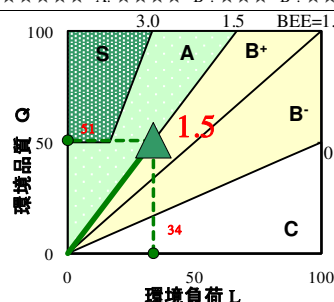
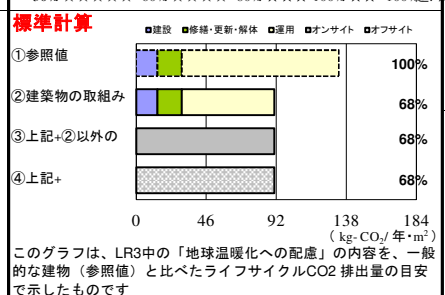
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ダイキン工業株式会社流川製作所 用途開発推進センター(ADMC)	階数	地上3F
建設地	大阪府摂津市西一津屋	構造	S造
用途地域	工業地域、第二種中高層住居地域防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年10月18日
敷地面積	6,386 m ²	作成者	双星設計 永野真也
建築面積	3,907 m ²	確認日	2024年10月25日
延床面積	11,128 m ²	確認者	双星設計 平浩行



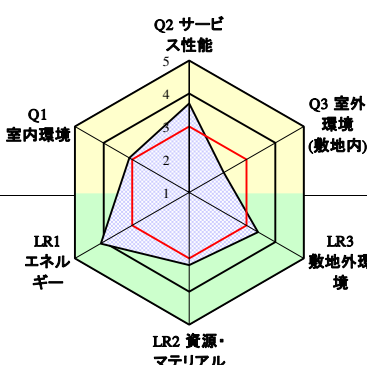
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

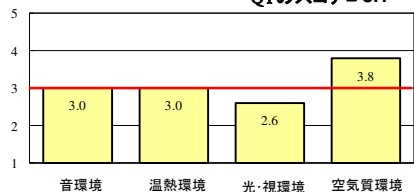


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

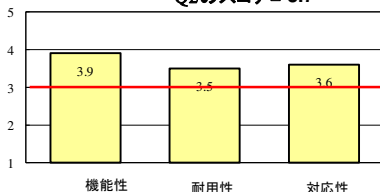
Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1



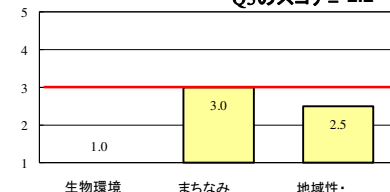
Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7



Q3 室外環境(敷地内)

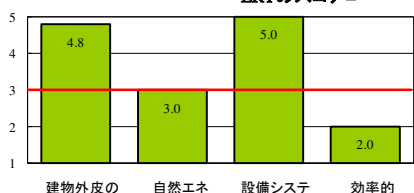
Q3のスコア= 2.2



LR 環境負荷低減性

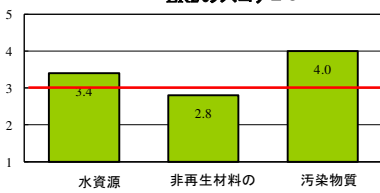
LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1



LR2 資源・マテリアル

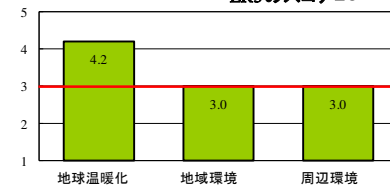
LR2のスコア= 3.2



LRのスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4



3 設計上の配慮事項

総合

用途上閉鎖的になる研究エリアや、3階の執務エリアについては、それぞれの特徴に合わせて省エネルギー化を図り、環境負荷の低減および地球温暖化への配慮を行った。国内外の社員が利用できる共用部や会議スペースが設けられているため、利用者の年齢・障がいの有無・性別・国籍に関わらず、安全に利用できるようバリアフリーやユニバーサルデザインに配慮している。また、災害時には構内の従業員の退避場所としても活用できる建物として設計した。

その他

特になし

Q1 室内環境

共用部や執務エリアはLow-eガラスを採用した大きな開口部を設け、自然光を取り入れながら、熱負荷を低減している。ガラス面以外にも外皮性能向上のため、高性能断熱材を採用している。

Q2 サービス性能

執務エリアや共用部は、利用者が内装コンセプトの決定プロセスに参画し、利用者が働きたいと思う環境を自由に選択できる内装計画となっている。

Q3 室外環境(敷地内)

外観デザインは、生産エリアの中心地に位置することを考慮し、新しい事業所のシンボルにふさわしいものとした。建物周囲には十分なゆとりを設け、周囲の歩行者に圧迫感を与えないように配慮して計画している。

LR1 エネルギー

外装はLow-eガラスや高性能断熱材を施した押出成形セメント板を採用し、高い断熱・遮蔽性能を達成している。エネルギー利用量については、高効率熱源設備を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水性能を考慮した機器選定や、環境負荷低減に配慮した材料選定を行い地球温暖化・二酸化炭素低減に配慮した計画としている。

LR3 敷地外環境

敷地の周囲は、将来的にも安全でフレキシビリティの高い業務動線となるよう、ゆとりを持った計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		ダイキン工業株式会社淀川製作所 用途開発推進センター（ADAC）						
建設地		大阪府摂津市西一津屋						
用途／区分		事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	断熱性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					5	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

エネルギー消費量の報告						報告しない	
-------------	--	--	--	--	--	-------	--

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	4.2	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	4.8	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		